

TDB 圏域別景気 DI (2020 年 11 月)

「秩父」などの圏域で景気 DI が 50 となり回復傾向 ～ DI が 20 台である圏域では、数カ月にわたり停滞続く ～

データソリューション企画部

池田 直紀

TDB 景気動向調査 (2020 年 11 月) の景気 DI は 6 カ月連続で前月比プラスの 35.4 となった。主に、各種施策による人の移動が活発化したことなどで観光関連を中心に持ち直しの動きが継続した。さらに企業の設備稼働率や生産・出荷量が上向いてきたことなども好材料となった。本レポートでは、全国 47 都道府県を 130 の圏域に分割し、特に景気 DI が高い圏域と低い圏域の動向について捉えた。

1. 「秩父」と「高知東部」の景気 DI はともに 50.0 で、130 圏域中トップとなった

TDB 景気動向調査 (2020 年 11 月) の景気 DI は 6 カ月連続で前月比プラス (1.6 ポイント) の 35.4 となった。圏域別¹にみると前月から 130 圏域のうち 91 圏域で改善となり、35 圏域が悪化となった。横ばいは 4 圏域だった。

また、景況感を 10 ポイント区切りで見ると、50 台以上は 2 圏域 (2020 年 10 月 1 圏域)、40 台は 16 圏域 (同 14 圏域)、30 台は 106 圏域 (同 97 圏域)、20 台は 6 圏域 (同 17 圏域)、10 台は 0 圏域 (同 1 圏域) となった。景気 DI が 20 台以下の圏域は前月より減少し、全国的に回復がみられる。

圏域別の順位は、埼玉県秩父市などの「秩父」と高知県南国市などの「高知東部」がともに 50.0 で最高となった。「秩父」では、「自動車業界は、一部持ち直している」(輸送用機械・器具製造、秩父) や「巣ごもり需要により、布団の受注が堅調に推移している」(繊維・繊維製品・服飾品製造、秩父) といった声にあるように、『製造』を中心に景況感をけん引した。以下、広島県三次市などの「備北」(47.2)、徳島県阿南市などの「徳島南部」(46.7)、大分県別府市などの「大分東部・北部」(46.3) が 40 台後半で続いた。

2. 景気 DI が 20 台となった「南予」などでは緊急事態宣言の解除以降も停滞が続く

他方、景況感が厳しい圏域をみると、愛媛県宇和島市などの「南予」が 26.9 で最も低く、業界問わず低水準となっていた。また、景気 DI が最高だった圏域(「秩父」「高知東部」と比較すると 23.1 ポイント下回っており、大きな差異がみられている。次いで、岐阜県多治見市などの「東農」(28.3)、新潟県長岡市などの「中越」、山梨県富士吉田市などの「東部・富士五湖」(ともに 28.9)、北海道釧路市などの「釧路・根室」(29.2)、石川県七尾市などの「能登」(29.6) が 20 台と

¹ 企業が実感する地域の景況感により近づけるため、地域の経済的なつながりや交通網などを考慮し全国 47 都道府県を 130 の圏域に分割して、圏域別景気 DI を算出

なった。

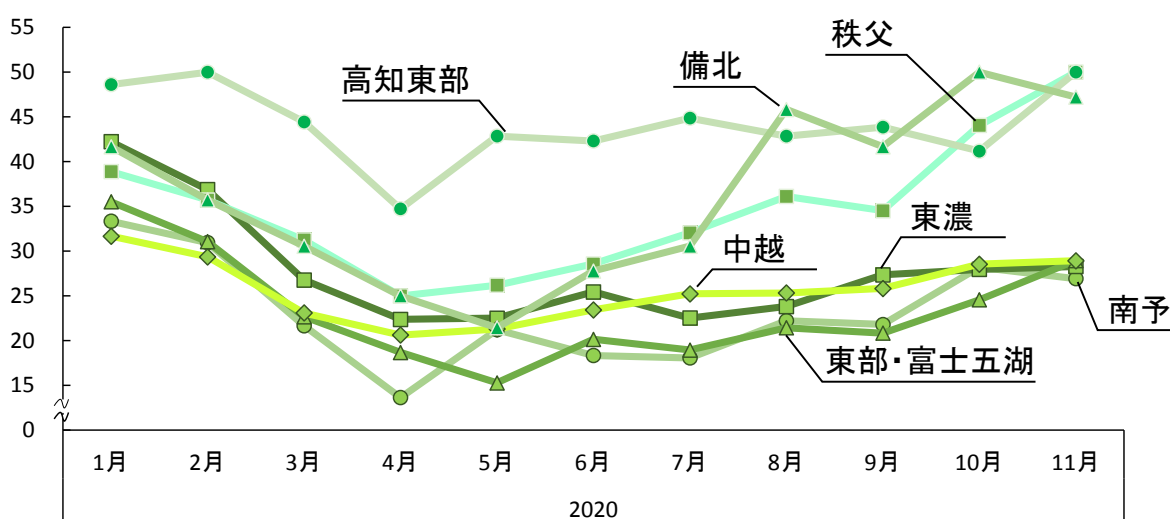
企業からは「Go To キャンペーンにより人の動きは出ているが、地元経済は抜本的な回復には至ってない」（旅館・ホテル、南予）や「新型コロナウイルスの影響で飲食、宿泊、結婚式、イベントなどの集まりが極端に縮小しており、それともなう需要が激減している」（陶磁器・ガラス器卸売、東濃）といった声があげられている。

景気DIが低い圏域（「南予」「東農」「中越」「東部・富士五湖」）について2020年1月からの推移をみると、20を下回る月が「南予」（4月13.6、6月18.3、7月18.1）や「東部・富士五湖」（4月18.7、5月15.3、7月18.9）において複数ある。さらに、上位3圏域と比較すると、緊急事態宣言の解除以降も景気DIは停滞しており、持ち直しの傾向が弱い。上位の圏域と比べると夏以降の持ち直しの差が冬近くまで影響している様子が見え（図1）。

表1 2020年11月における圏域別景気DI～上位10圏域と下位10圏域～

上位10圏域				下位10圏域			
都道府県	圏域	主な都市	景気DI	都道府県	圏域	主な都市	景気DI
埼玉県	秩父	秩父市	50.0	愛媛県	南予	宇和島市・大洲市	26.9
高知県	高知東部	南国市・室戸市	50.0	岐阜県	東濃	多治見市・中津川市	28.3
広島県	備北	三次市・庄原市	47.2	新潟県	中越	長岡市・柏崎市	28.9
徳島県	徳島南部	阿南市	46.7	山梨県	東部・富士五湖	富士吉田市・都留市	28.9
大分県	大分東部・北部	別府市・中津市	46.3	北海道	釧路・根室	釧路市・根室市	29.2
奈良県	奈良中和	橿原市・香芝市	44.8	石川県	能登	七尾市・輪島市	29.6
福島県	浜通り	いわき市・南相馬市	44.6	高知県	高知西部	土佐市・四万十市	30.0
佐賀県	佐賀南部	佐賀市・鳥栖市	43.2	北海道	道南	函館市・北斗市	31.5
熊本県	県南・天草	八代市・天草市	42.5	岡山県	備前	岡山市・玉野市	31.5
岡山県	美作	津山市・真庭市	42.1	宮城県	石巻・気仙沼	石巻市・気仙沼市	31.5

図1 上位3圏域と下位4圏域の圏域別景気DIの推移（2020年1月から11月）



まとめ

本レポートでは、2020年11月のTDB景気動向調査を用いて、全国を130圏域に分割して圏域別の景気DIを算出し、特徴を捉えた。

2020年11月の圏域別の景気DIは、徐々にではあるが全国的に回復傾向がみられた。他方で景気DIが20を下回っている圏域も依然としてあり、「南予」「東濃」などの圏域は、緊急事態宣言の解除以降も景況感は停滞しており、厳しい状況が続いている。

改善している地域と、停滞している地域の二極化がみられるなか、その差異の要因について把握し、適切な対策を講じることが必要であろう。

【 問い合わせ先 】

株式会社帝国データバンク データソリューション企画部 産業データ分析課

池田 直紀

03-5775-3163 keiki@mail.tdb.co.jp

帝国データバンクで毎月実施している TDB 景気動向調査にご協力いただける企業さまは、こちらから登録できます（スマートフォン等をお使いの方は QR コードからも可能です）。

<https://www.tdb-di.com/ent/rent.html>



当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。